



雀らも海かけて飛べ吹き流し

「風薫る」5月の到来です。日本ですと鯉のぼりが風になびく風景を目にする頃です。ここオランダでも吹いてくる風に、澄んだ空気の美しさを感じます。時に冷たく肌を刺す風ですが、子どもたちはそれをものともせず元気に走り回っています。その姿に、ふと、この句（作・石田波郷）を思い出しました。向かい風にも負けず広い世界へと羽ばたいてほしいと願っています。それを私たち大人は吹き流しのよう、大らかな気持ちで見守りたいものです。

◆ 5月の学校行事 ◆

- 4日（木） 戦没者慰霊の日
学習参観・PTA総会
- 5日（金） *解放記念日
- 8日（月） 運動会全体練習③（6校時）
- 10日（水） ヲランダ公園校外学習（小1・2）
- 12日（金） 職員バス添乗
- 15日（月） 運動会全体練習④（6校時）
- 16日（火） 第2回避難訓練
委員会（小）
- 19日（金） デンハーグ市内見学（中3）
- 23日（火） 海外学校説明会
クラブ（小）
- 25日（木） *昇天祭
- 26日（金） *昇天祭翌日
- 29日（月） 運動会全体練習⑤（6校時）
*印は休日となります。

☆全体練習始まる！

運動会当日まで5回の全体練習が計画されています。小学部低学年の児童達が、遅れまいと必死に走る姿の健気さに胸がうたれます。

少しずつ練習にも気合いが入ってきました。当日の演技を楽しみにお待ちしております。



全校練習②・よさこいソーランの様子

◆◆◆◆◆海外学校説明会・相談会のお知らせ◆◆◆◆◆

5月23日（火） 第1部 10:00 全体説明会
第2部 12:50 個別説明会

帰国生受け入れの情報や学校の方針、様子を知ることができます。また、具体的な質問等、個別相談の時間が設けられています。お子さまの学年にかかわらず、ぜひ、ご参加ください。追加希望のある方は担任まで、お申し出ください。

*今年度は、月初めに学校全体の月行事予定をお知らせいたします。

（担当：教頭 小出幾子）

あらためて家庭の意義を考えてみましょう

子どもが突っ走れるグラウンドをまず整えること。

子どもも大人もなしに、人間という樹木の根っこは家庭、まさしく家の庭にあると思います。学校でもなく友達関係でもなく、根本は家庭だと思います。家庭環境というと月並みな言葉になりますが、育った土の養分や色合いや湿り具合やそういったものが、その人間の生活や広く社会生活にさまざまな光を投げ、影を落としていくものではないでしょうか。だから私が経験してきた担任という仕事のひとつの断面からでも、その家庭の土壌を（あくまでほんの一断面に過ぎないかもしれませんが）どんな土壌か推測することができました。「ああ、この家の土はすごく養分がタップリしていて、湿り具合もよく、植物は豊かに育つのだろうな」というように。反対に何となくカサカサ乾いて、少々の水を流したくらいではあつという間に元の枯れ果てた砂漠に戻ってしまうのではないかと正直心配したくなる家庭もありました。

別の言い方をすると、家庭というのは走るグラウンドのことです。子どもが安心して走れるグラウンドが家庭のあるべき姿だと思います。だから子どもたちがグラウンドの向こうのゴールめがけて走り始めたとき、もしそのグラウンドに大きな石が転がり、穴が開いていたら安心して全力で走ることはできません。石や穴というのはたとえです。お父さんとお母さんは本当に仲が良かったらどうか 子どもが学校から悩みごとやストレスを抱えて家に帰ってきたとき、気軽にそれを打ち明ける場が家庭にあるだろうか。一度でも両親が子どもに対し、勉強のことばかりでなく、こんな大人になってほしいと語ったことがあるだろうか。そういうことがあまりなされていない家庭が案外多いのではないのでしょうか。子育ての方針が両親の間で一致しているか、真剣に子育てを考えているかなど、その家庭にどんな石や穴が散らばっているか時折振り返ってみることも大切に思います。

もちろん石や穴は取り除かなくてははいけません。父親も母親も一緒に力を尽くし、グラウンドを走りやすく整備するのです。その作業ができあがったら、あとは子どもの背中をポンと押してやればいいわけです。彼らはいちいち手足をとってやらなくても自分で走っていくことができるはずです。

逆にグラウンドの整備が不良である限り、子どもは真っ直ぐ育たないし、思い切り走ることができません。まして人の心の痛みがわかるような大人には育ちません。お父さん、お母さんには子どもに頑張っていることばかり要求する前に、自分たちも我が子のためにやるべき仕事をたくさん抱えていることが事実です。

しかし、このようにえらそうなことを書いている自分は、はたして父親としてどうだったのかと自分を振り返ってみると、反省しなくてはいけないことが多々見えてくるものです。あの時、もっと我が子にこうしておけばよかった、しっかり向き合っこんな話をしてあげればよかったと。だから、本校の保護者の皆様には、是非この機会にもう一度家庭のあり方について考えていただきたくて書かせていただいた次第です。（尾後貫 智）